

農福連携推進へ 先進事例を学ぶ

岐阜県など
研修会

【ギフ】岐阜県と県農畜産公社（ぎふアグリチヤレンジ支援センター）は14日、岐阜市内の岐阜産業会館で今年度第1回の「農福連携推進研修会」を開いた。障害者就労施設やJAの役職員ら約50人が参加。先進的な取り組み事例などを学んだ。

京都府京田辺市にある就労継続支援B型（通所

型）施設「さんさん山城」の新免修施設長と藤永実管理者は、地域に根差した活動内容を報告した。ろう者、難聴者を中心に34人の利用者が登録している同施設では「自分たち（利用者と職員全員）で創造して販売する」を掲げ、京都伝統野菜の「京都えびいも」や地域特産の「京都田辺茄子（なす）」などを生産し、加工や販売も手掛けているとした。

施設内に設けたコミュニティカフェは、生産した農産物を使った日替わ

りワンコイン（500円）ランチが好評で、今年7月には開設後3年でランチ提供数が3万食を突破した。地域の商工会や観光協会と連携した商品開発も進めており「地域の一員として『ここにあって良かった』と言われる存在になることが最大の目標。障害者でもできる仕事ではなく、さんさん山城だからこそできる仕事があると考えている」と語った。

この日は、障害者雇用支援制度などの解説も行われた。